



▲上田市を出発する一行。壮大な事業がスタートした

出石そば伝来の道500km 「皿そば道中」で出石を全国にアピール

出石地域では、昨年、歴史あるまち出石の名を全国に広くアピールしようと、「出石そば伝来300年祭」と銘打ち、さまざまなイベントが繰り広げられました。そのイベントの一つ、「皿そば道中」において計画から実行まで携わり、成功へと導いた一人の男性を紹介します。

田中 覚^{さとる}さん（38歳） 出石町町分在住



▲23歳でそば屋を独立開業した田中さん。以来、15年間そば一筋。趣味は中学から続けているバレーボール。週に1回程度、仕事のあとは仲間と練習に励んでいる

人々の記憶に残ることをしたかった

昨年、春から年末にかけて行われた、「出石そば伝来300年祭」。全国そば祭り、新そば発表会、そして年の暮れには女忠臣蔵と討ち入りそばの夕べが行われ、盛況のうちにその幕を降ろしました。なかでも一際人々の注目を集めたのは、皿そば道中です。出石町商工会青年部に所属する田中 覚さんはこの企画の実行委員長を務め、見事、その偉業を成し遂げました。「そば伝来300年の節目に、人々の心に残るような大きな事業をしたかったんです」。

そう語る田中さんは、歴史

人々の温かい人情にふれた道のり

ある出石そばを全国にアピールする方法はないかと思索した結果、出石そばのルーツをたどる「皿そば道中」を発案し、周囲の理解を得ながら計画を進めました。

出石町商工会青年部が企画したこの皿そば道中は、出石そばを伝来したとされる仙石氏がお国替えの際にたどった信州上田から出石までの道のり約500キロメートルを歩いて巡行するという壮大な計画でした。5月14日には、当時の旅装束を身にまとった第1班4人が、上田市長から親書と玄そばを受け取り、上田市民に

見送られ、同市を出発。以後、中山道、東海道、山陰道を通る全コースを21区間に分けて、リレー形式で延べ143人が35日間かけて踏破しました。

巡行時には、「そば伝来300年祭」ののほりを掲げて歩くとともに、長野や京都などでは手打ちの出石そばを振る舞い、城下町出石をアピールしました。

また、旅の途中では、沿道から声援が送られたり、一般家庭に泊めてもらうなど、多くの人々の温かい人情にふれることもできました。

精神的にも成長した皿そば道中

6月17日の到着式では、出石総合支所前で全国そばまつりが開催されていたこともあり、大勢の地元住民や観光客などが出迎えに訪れ、出石大名行列槍振りの先導のもと、盛大な拍手を受けて無事ゴールすることができました。

出迎えた出石そば伝来300年祭実行委員長の岡本健一郎さん（但馬國出石観光協会会長）は、「青年部員の顔

を見ると、さまざまな文化や歴史に触れ、一周りも、二周りも大きく成長して帰ってきたように思います。ぜひ、この経験を出石のまちづくりに活かしてください」と激励のことばを送っていました。

仲間との絆を大切にまちに活気を

「皿そば道中では、出石のPRを積極的に行ってきましたが、出石を知らない人が結構いると感じました。今後の目標は、出石をもっと知ってもらうためPRに力を入れることです。それには、地道な活動を続け、出石をさらに活気づけることが第一です。今回の事業を通じて一層深まった仲間との絆を大切にしながら前に進みます」と当時を振り返り、抱負を語る田中さん。その力強い口調からは、地域の活性化に向けて、確かな手応えを感じているようでした。

▶上田市長から受け取った親書と玄そばを手渡す一行

